

大名將棋

五代目 笑福亭 松鶴

一〇

紀州の親殿様が御逝去ごせいきやうになりましたして今は若殿の御代でござります、毎日臣等一同が殿様の御機嫌伺ひに出ます。○「エ、若君には麗うるはしき御尊顔を拜し、只だく恐悦けうえつを申し上げます」若「フム菅沼か、予は毎日所在がないに依り將盤ばんじょう手合にても致したいと思ふが、其方將棋を心掛け居るか」菅「ハッ、聊か心得が御座ります」若「然らば予が相手をいたせ」菅「ハッ、お相手仕ります」若「コリヤ坊主盤を持って」坊「ハハッ」と答へて茶坊主が其所へ將棋盤を持つて参りました、持つて來た將棋盤でも、私共が差して居るような紙に罫を引いて蜜柑箱の底に貼り附けてあるやうな將棋盤とは違ます相手は何しろ紀州公で御座りますから梨子地塗なしじぬりに三葉葵みつばあひの御定紋が附いて御座ります、駒でも歩が足らんさかいと云つて巻煙草の吸口を千切つて乗せたりマツチを折つて乗せてあると云ふやうな駒とは駒が違います、象牙ばらこんに彫刻ぼりこんんでござります、茶坊主が盤に駒を並べますと。若「菅沼、其方が予に不覺を取つたならば其の方の頭を是れなる鐵扇を以て二つ打つぞ」菅「委細承知致しました若し君がお負けになりましたら……」若「黙だまれ主が家來に負けると云ふ法やあらん」菅「そりや不可いけません、手前

とても打うつれば痛いたう御座ります」若「そこは成るだけ忍耐をいたせ、予が萬一行り損つたら其の儘ぢやわい」菅「そんなぢやらくした、敗けたら打うつかれるワ勝つても其の儘にせいと云ふやふな……」と云つて見たが鶴の一聲、殿様の仰しやることは仕方がござりません、皆様も御案内の通り紀州と云ふ所は大體將棋の盛はさむ所でございます、殿様は何の位差くらひせるかと云ふと初段角落と云ふ所だ、將棋も初段に角落となれば中々大したもので素人初段と云ふ位でござります、菅沼様は何の位差くらひせるかと云ふと三段の上差かみさしで將棋も三段の上ならば立派なもので御座ります、私も一寸ななざ慰みに差しますが、三段の一寸悪い所で御座います、お笑ひ遊ばすと恐れ入りますが眞實で御座居ます、何を仕ても算談が悪ければ仕方が御座りませぬ、さて平手で差掛けましたが段あが開く將棋で御座りますから堪りません十五手二十手程差しますと殿様の王様は彼方あつち此方こちへ逃げ歩いて居る遂ついには堪たまらぬ所からそつと銀を横へ寄せた、これを目早く見附けた菅沼は。菅「若君そりや不可いけません、それは銀で御座ります銀は横へ寄せません」若「イヤ宜いく金を斜かたに下つて入合せをする」菅「そないな亂暴なことされては困ります、金銀の働はたらきが狂くるふて居ります」若「黙れッ、先程から予の王は彼方あつち此方こちへ逃げ廻つて居るぢやないか王が逃げれば亂世である亂世に金銀の狂くるふ位は當然の事ぢや」菅「仁輪加やが、なそんなぢやらくした……」若「愚圖々々申さずに早く參れ……」菅「若様そりや、不可いけません、角をならん先に眞直に行つては」若「イヤ構かまはぬ、其の代り飛車を斜かたに行つて入合せをするワイ」菅「何うもならんが

一一